

編集後記

今回から編集委員に任命していただき、この作業に加わるようになった。和文誌に加え英文誌も刊行しており、編集委員のみならず査読をいただいている諸氏にも頭の下がる思いである。論文は査読を経ることによってブラッシュアップされ、質が上がっていく。論文によっては3度、4度の修正を経て採択にこぎついているものもある。投稿者の立場から見るとなにと時間のかかる作業であろうが、査読者の意見を参考に日本小児循環器学会誌のレベルアップに貢献していただければと思っている。英文誌も論文投稿があってこそ価値が上がっていく。2017年もあつという間に過ぎていった。平成という元号も終わりに近づいている。新たな時代の訪れを感じながら、2018年が小児循環器学会会員のみなさまにとって希望ある年になるようお祈りしたい。

(赤木禎治)